

韓共

法政大学で30日 在日文学シンポ

「在日文学」の未来を論議

田舎「在日」文学シンポジウムが30日前10時から午後6時まで、東京・市ヶ谷の法政大学市ヶ谷キャンパスで開かれる。主催は法政大学国際文化学部と韓国全北大学校人文学研究所。

「在田文学」は戦前の国人の日本渡航以来あり、
とくに戦後は芥川賞や直木賞など、名だたる文学賞を
受賞者も数多く輩出している。そこでは民族の問題を
国境を越えた人間の生き方

の文学界にも刺激を与えた。日本文学の問題などが扱われて、その在日文学も近年に至り、在日自身の変化とともに、姿容を余儀なくされてゐる。同シンポでは、在日

文学のこれまでの蓄積を総括し、これから在日文学の方向性について話し合う。

歴史

などを話し合ひ、官民の歴史共同研究が今後さらにような成果をもたらすが注目される。

高銀詩選集が出版

世界的詩人の“詩歴”網羅

韓国が生んだ世界的大詩人、高銀の詩選集が出版され、話題となつてゐる。他に現代史関係の書籍も相次ぎ出でている。



竹島=独島論争 歴史的見地から見る

なつた竹島＝独島の領有問題について、韓日両国との歴史資料、あるいは中國、歐米の歴史資料などを丹念に読み込み、論争解決への糸口を提示。内藤正中氏は島根大学名誉教授、朴炳渉氏は在日の研究者で竹島＝独島問題研究ネット会員。